



初夏の花の(左)スイカズラや(右)ヤマハゼの柑橘系の甘い香りを味わいながら歩いていると夏鳥の声はキビタキが雑木林の上の方からホトトギスが遠くから聞こえてきました。気温も夏のもので日陰に入るとほっとしました。



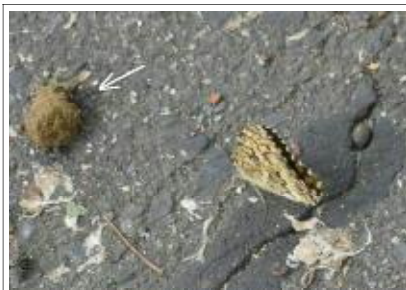
イボタ

白い小さな花が満開です。匂いは好み分かれます。名前の由来はこの木に付くカイガラムシが出そうがイボにきくということからのようです。



ガマズミ

この周辺にはコバノガマズミ、が一番早く、続いてミヤマガマズミ、ガマズミの順に咲き始めます。共にきれいに紅葉し、秋に実が赤く熟します。



サトキマダラヒカゲ

歩いていたらまとわりついてきて、近くに舞い降りました。蝶の斜め前にあるのは犬の糞でした。花は好まず、腐果や樹液を好みます。



マルバヤナギの実

池沿いを歩いていたらふわーとした綿のようなものが飛んでいきました。道の端を見ると白い綿のようなものが固まっていました。見上げるとマルバヤナギの実から綿毛が顔をのぞかせています。白い綿毛の付いた柳の種を柳絮りゅうじよと言います。



ニッポンヒゲナガハナバチの雌

雄には体より長い触角を持っているのでヒゲナガハナバチと言われますが、雌のは頭の大きさくらいです。幼虫は花粉団子を食べて育ちます。



### ニガナ

漢字では「苦菜」。タンポポと同じように葉や茎から苦味のある白い液が出ます。林の縁



で集まって咲いていました。



### イオウイロハシリグモ幼体

成熟すると前足から後ろ足の先まで測ると40ミリのくらいになる大型の蜘蛛です。ハシリグモは巣を張らず、歩き回って獲物を捕るクモです。色模様には変異があります。



### アマリリス

フェンスの外にありました。花の直径が10 cm くらいあり、彼岸花の仲間です。南米から中米が原産地です。



### ミカワオサムシ

主に東海地方に分布する種類で、愛知池ではよく見かけます。雑木林の地面を素早く歩きながら獲物を探します。前翅の胸側がなで肩で飛ぶ力を失っています。



### アオカミキリモドキ

体長15ミリのほど。コナラの葉の上にいました。幼虫は腐朽した木を食べて大きくなり、成虫は花粉を食べます。後脚の近くから毒成分を分泌するので触らないように。



### テイカカズラ

つる性の木で、終わりかけでしたがこれも柑橘系の良い匂いがする花です。茎から付着根を出してくっつき、高木の樹冠を覆うほどになります。



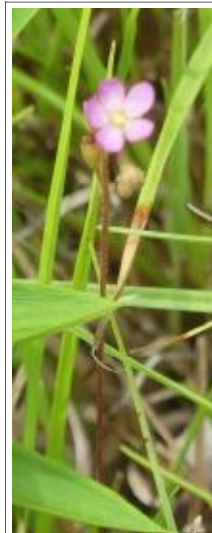
### ナナフシモドキの幼虫

脚を伸ばして細い枝にみせかける昆虫です。触角は短く、前脚で代用しています。草食性で成虫は10 cm くらいになります。雌のみで繁殖します。



### キリギリスの幼虫

春先はタンポポなどの花の上で花粉を食べていたのが、大分大きくなって花を離れ、植物だけでなく虫なども食べています。



### トウカイコモウセンゴケ

5ミリのくらいの小さな花で食虫植物です。かなりまとまってあつたのですが、年ごと数が減っています。